

上山市振興計画推進会議の検証結果概要

1 会議概要

- (1) 開催日：令和5年7月4日（火）
- (2) 場所：大会議室、政策会議室
- (3) 参集者：上山市振興計画推進会議委員9名、副市長・事業担当課長
- (4) 協議内容：第7次上山市振興計画後期基本計画（計画期間：令和2年度～令和5年度、77施策321事業）について検証を実施した。

また、第2期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：令和2年度～令和6年度）に位置付けられている事業、地方創生推進交付金を活用した事業及び新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業についても検証を実施した。

2 検証結果の主な内容

■ 全体

・『3 産んでよし 育ててよしプロジェクト』の目標値である出生率だが、なかなか厳しい状況である。こういった状況を踏まえ、次期計画策定の検討をいただきたい。

・目標値に対する現状値が、明らかに増えている、減っているという現状は把握できるはずである。目標値を当初の考え方にに基づき、変更しないというのは、民間感覚ではありえない。行政感覚で説明されてしまうと、検証会議の意味がなくなってしまう。

・大きな組織になると必ず、枠内志向、予定調和、前提条件を崩さないことが見られ、衰退していく。どの組織も陥ることがある。民間企業でもこういうやり方は見直されており、本当にしなければいけないことを話し合うべき。市も現状を変えていく必要がある。

・実施計画兼予算要求書の活動指標と事業費の関連性が少なく、書き方として不親切なのではないか。

・インフラについては、良い・悪いを議論する必要はないのではないかと。細かく目標設定されているが、安心安全で快適なインフラ整備をしてもらえればよいと思う。

■ 第1章 はぐくむ「笑顔いっぱいのもち」

1-1-1 結婚に導く環境づくり

・市で出会いの支援策を行っている事を知っている人がそもそも少ない。マッチングアプリの方が効率的だという声がある。広報のやり方をもう少し工夫した方がよいのではないかと。

1-1-2 子育てに関する施設利用と経済的支援の充実

・令和5年度の目標が、前年度と比較して6万人以上多いのは、現実的に難しいと思われる。また、コロナ前の実績が年間10万弱であることと、山形市のコパルとのすみわけが出来ていることは理解するが、それでも残り1万人強の利用者上乗せは難しいのではないかな。

・目標設定や、目標を達成することによって何が実現され、どの点が改善されるのかが見えない。人口を増やしたいのか、移住定住者を増やしたいのか、上山市にとってどうプラスになるのかが資料からはわからない。

・目的に『子どもが健やかに成長できる環境を整備し、子育てに要する経済的な負担軽減します』とあるが、施策の目標値からはそれが読み取りにくい。目的と目標値の関連性が分かりにくい。

1-1-3 子育てに関する情報提供・相談体制の充実

・市役所全体としてIT化が進んでいると認識している。LINEアカウントの利用割合において、当初予定の3倍の人が利用している。なぜ令和5年度の目標が前年度に対して減少設定であるのか、現状に合わせて見直すべきである。

1-3-2 特色ある学校づくりの実現

・大事業『教育相談所運営費』について目標に対して活動指標のずれがあるように感じる。

1-4-1 学校等施設・設備の整備

・現在の新入職員に聞いても、半分くらいは奨学金利用者であり、就職と同時に車が1台買えるくらいの借金を背負っている。給付型の奨学金制度があるとよい。金額も見直しを行い、使って効果があるような形にしていくのがよいのではないかな。

■ 第2章 やすらぐ「元気であたたかいまち」

2-1-2 健康づくりを支援する環境整備

・健康ポイント事業・百歳体操は、高齢者に外出を促す効果もあることから、今後も取組を強化すべき。

2-5-1 地域で支え合う福祉の充実

・これまでは新型コロナウイルスの影響もあったが、今後はボランティア等の参加者が増えていくとよい。

2-6-2 高齢者の安全・安心な暮らしの確保

- ・灯油高騰費等助成事業費において、燃料費が高騰しているため 5,000 円では補助が足りないのではないか。

■ 第3章 にぎわう「魅力と活力あふれるまち」

3-1-1 農業の担い手の確保

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、会合などが開催できなかったが、今後は会合等が開催され、集約化された農地の管理が行き届くのではないかな。
- ・農業の担い手がない、耕作放棄地が増える中、都市部の方で農業をやりたい人もいる。市がそのようなニーズのマッチングをしていくのがよいのではないかな。

3-1-2 農産物販売額の拡大

- ・凍霜害の影響もあり、個人経営の農業者一人あたりの販売額が減少しているのではないかな。
- ・凍霜害の被害対策としても、栽培支援アプリ「かるほく」の調査地点の増加をお願いしたい。

3-1-3 有害鳥獣対策の推進

- ・豚熱収束後は、有害鳥獣も増加することが考えられるため、人員、予算増をお願いしたい。また、クアオルトコースの安全策としても、有害鳥獣対策を推進してほしい。

3-2-1 中心商店街の活性化

- ・いろは市などは継続していくべきである。また、賑わいづくりには、実際、事業を行う担い手の方が重要となってくる。

3-2-2 個店の魅力向上、経営の安定化及び創業支援

- ・企業は人不足であり、企業の魅力がないと人は集まらない。
- ・今回のワインバルのようなイベント出展をきっかけに、空き店舗を活用して個店出展につながればよい。
- ・駅前にお土産屋があるとよい。

3-3-1 産業拠点形成及び企業誘致

- ・企業誘致はどこの市も実施しているが、人口減少対策としても、東和薬品に続くような企業規模の誘致活動をしてもらいたい。

3-4-1 人材の確保・定着

- ・人材の確保は企業の問題ではあるが、第7次振興計画策定時に比べ、人材不足は加速している。外国人労働者がどのくらいいるのか把握すべきであり、また、外国人スタッフにやさしいまちづくりが求められる。
- ・移住してくる方や外国人の方から意見を聞く場を設ける必要があるのではないか。

3-5-1 周遊の拠点となるための戦略的な観光振興

- ・かつては観光基本計画という独立した計画があったが、今はない。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、第7次振興計画はあつてないようなものとなっており、これからは重要である。観光物産協会ではDMOも設立し、これから、地域計画を策定する。その地域計画を踏まえ、第8次振興計画を策定してほしい。
- ・インバウンドはこれからも伸びが期待できる。蔵王の麓にある地の利を生かし、より一層推進していくべきである。
- ・第8次振興計画では、観光の側面だけでみるのではなく、多面性でみれば新たな軸も見えてくるのではないか。

■ 第4章 うるおう「快適に暮らせるまち」

4-9-1 利用しやすい都市施設の整備

- ・上山市の公園は、やはり子どもが遊ぶには施設が少々不十分に感じる。
- ・住んでいる場所によって、遊べる公園が変わってくる。自分が住んでいる場所は、近くに公園がないため、子どもの遊ぶ場所が家の中などに限られてしまう。また、上山市内には子どもが上の学年になってからも遊べるような公園が無い。山形市の公園は、遊具がもっと充実しているので、その点をもう少し改善していただきたい。

4-12-1 安全で良質な水の安定供給

- ・有収率などのインフラに関する用語は分かりにくい点もあるので、第8次振興計画では、市民にも分かりやすい表現で伝えていくべきである。

4-15-1 消防組織・体制及び施設の充実

- ・市民への防火思想の推進をはじめとした目標に掲げられている内容が、本来、目的に位置付けられるべきである。
- ・目標値が火災の件数で過去の平均値ということだが、目標の設定自体を見直した方が良いと思う。火災は事故であるので、我々でコントロールできない。発生原因を分析して、根本的な原因を減らすことができるような、自分たちでコントロールできるものに目標値を変えた方が良いのではないか。

4-15-2 消防団を中核とした地域防災力の充実強化

- ・消防団や自主防災組織などの住民を基本とした防災のあり方も第8次振興計画では重要となってくる。

■ 第5章 つながる「みんなで創る住みよいまち」

5-3-2 男女共同参画の推進

- ・各委員の選出方法を工夫し、女性の意見が反映できる場づくりが重要である。

5-4-1 市民交流の拡充

- ・世界情勢の背景もあるが、姉妹都市や海外もふくめ、交流することで助け合うことは重要である。

■ 第6章すすめる「施策実現のための行政運営」

6-1-1 市民が行政情報を知りやすく行政に参加しやすい環境の充実

- ・今回のワインバルでも SNS を強化した。SNS は今後も重要になってくる。

3 意見への対応

頂いた意見については、新年度の予算編成を行う際の参考意見として取り扱うとともに、第8次上山市振興計画策定にあたっての参考意見とする。

以 上